

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 グローバル人材育成支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111 (内 291)

E-mail：c21803@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 300 千円 (前年度予算額：300 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	300	129	0	0	0	0	0	0	171
要求額	300	142	0	0	0	0	0	0	158
決定額	300	142	0	0	0	0	0	0	158

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

グローバル化、県内在住の外国人の増加を受け、文化に対する正しい相互理解とコミュニケーション能力の向上の必要性がますます高くなってきている。「国際化に対応する人材育成」、「多文化共生」という課題に重点的に取り組むため、関係資料の貸出、相談業務、各種講座を開催し、岐阜県のグローバル人材育成支援、外国人県民の利用促進の手助けとする。

(2) 事業内容

○グローバル人材の育成支援

グローバルコミュニケーション力の一つである英語力向上を支援するための講座を開催するほか、異文化理解、語学学習関連の図書資料を充実させ、専門の職員がレファレンス (調べもの相談) に対応する。

また、外国文化に接する機会を創出するための講座を開催することにより、世界に目を向けるきっかけとなる場を提供する。

○多文化共生支援

外国人県民にも利用しやすい図書館となるよう、外国語資料、日本語学習資料の収集などを実施する。また、特にベトナム人の人口が増加していることから、ベトナム・フエ省の図書館と情報交換などをし、県内在住のベトナム人の読書支援をするとともに、日本人利用者に、ベトナムの文化などを知ってもらう機会を設け、相互理解の一助とする。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10/10 中核図書館として県において実施することが妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	113	講師謝金
旅費	16	講師旅費
需用費	82	消耗品費、会議費
役務費	16	通信運搬費
委託費	73	業務委託料
合計	300	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針3 - 目標 13 - 豊かな人間性をはぐくむ教育の推進 - ⑦読書の推進

○「清流の国ぎふ」創生総合戦略

政策の方向性1 - (1) ④グローバル社会に対応した教育の展開

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ニーズの高まりのある「国際化に対応する人材育成」、「多文化共生」という課題に重点的に取り組むため、海外情報コーナー・海外教育コーナーにて、関係資料の貸出、相談業務を行う。

また、各種講座や外国の文化等を知る機会を創出し、岐阜県のグローバル人材育成支援及び多文化共生支援の手助けとする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
英語多読講座（講演会）参加者(累計)	40人 (H31)		56人 (H29)	40人 (R1)	360人 (R5)	11.1%
児童生徒への外国語図書貸出冊数(累計)	0冊 (H31)			0 (R1)	800冊 (R5)	—

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

英語多読について、図書館資料の活用方法などを学ぶ講座を開催した。参加者は40～50名ほどで、満足度は90%を保っている。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

講座を受けて英語多読に取り組む人が増え、貸出冊数が伸びた。今後も定期的に講座等を開催することで、安定した貸出を見込むことができる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価)	グローバル化が進む現代社会で、外国と自国の文化や習慣を正しく理解するグローバル人材の育成に取り組むことが求められている。また、多文化共生社会に向けて、外国人県民や彼らを支える人々への支援が重要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 外国籍の児童生徒が多く在籍する学校や、国際的に活躍する人材を育成するための教育に力を入れる学校への支援体制の強化や、多文化共生社会に対応した図書資料の収集、外国人県民への図書館利用支援が必要である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 関連コーナーの資料の充実を図ること、語学力習得や外国文化を理解するための講座を開催することで、グローバル人材の育成に継続的に取り組む。 また、外国人県民やその支援者をターゲットにした事業を展開することで、多文化社会を支える基盤の一部となる。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	